第512号
令和5年
10月20日

すまいるたうん

発行元
東京新聞
南千住専売店
TEL3803-1781
発行責任者
鬼塚　佳代子
TEL090-2657-0300

ミシンと記憶を蘇らせる
有限会社長崎ミシン電器商会

「昔のミシンは個性がある。」

有権会社　長崎ミシン電器商会の二代目代表の長崎達夫さんは、他で断られた古い足踏みミシンを再生しています。

「納期は決められない。」

製造された年代、メーカー、様々な機種のミシンが依頼者の思いと共にやってきます。ミシンによって修理する箇所も違います。手に入らない部品の代用も試行錯誤で探し出し、長崎さんの手に寄って、ミシンは冬眠から目覚めて動き出します。

右手ではずみ車を回し、カタカタカタカタと足でペダルを踏み続ける足踏みミシン。

明治時代に普及したミシンは輸入品でしたが、大正時代に国内で量産されるようになりました。戦後は嫁入り道具にミシンを持参して、内職をする家庭が多くありました。昭和40年頃まで家庭の必需品だった足踏みミシンは、その後、電気ミシン・電子ミシンなどに移り変わっていきました。

「千差万別の物語が込められて」

それぞれのミシンには物語があります。依頼者から、そのミシンにまつわる思い出を聴くのが楽しいと仰る長崎さん。

眼科医していた103歳(女性)が自分の誕生祝に医者の両親が輸入で購入したミシンを復活してもらい、笑顔でミシンの前に座る写真からその喜びが伝わりました。

「母が女学校の時、欲しかったって。試験前に父に座敷によばれ、期末試験結果が良かったら買ってくれる話かと期待して行ったら、見合いの話だったと言っていた。」

「ミシン懐かしい。子どものころ、似たような足踏み式がありました。今は電動ばかりだけど。」

足踏みミシンの写真を見た友人たちには、音と記憶が蘇ってきました。

長崎ミシン電器商会は「ファミリーヒストリー」「なんでも鑑定団」女の勲章「私の履歴書」の撮影協力もしています。工房にはジューキ・JUKI・ブラザー・ジャノメミシン等の多種のメーカーのミシンが芸術品のように置いてあります。美しいデザインの百五十年程前に作成されたシンガーアンティークミシンもあります。インテリアとしても注目されている足踏みミシン。

長崎ミシン電器商会は、ミシン修理から販売までアフターフォローも万全です。アンティークミシン修理ご相談下さい。古いミシン、裁断機、アイロン他、何でもご相談下さい。

また、中古ミシンの販売を行っております。

価格や在庫の有無に関しましてはお問い合わせ下さい。

有限会社
長崎ミシン電器商会
〒116-0001
荒川区町屋7－11－4
(町屋駅徒歩14分)
営業時間：9:00～19:00
休業日：日曜・祝日
(事前に連絡あれば対応可)
TEL：3892－2724
FAX：3892－2725
https://www.nagasakimishin.com/
LINE-QR コード
HP-QR コード